

1987	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
12	•	•	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	•	•

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
 防災広報紙

NO. 40

昭和62年11月30日発行
 発行所 川崎市
 編集所 土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL (044)200-2111内線2841

この一年ほんとにありがとう。

そして新しい一年もよろしく。

クリスマスプレゼントは最も身近にいる人への
 一年分の感謝と、一年分のあいさつのしるしです。

同じキモチで救急箱や非常持出袋の中身も取り替えましょう。

そして新年に向けて何かと忙しい年の瀬ですが、
 大掃除の時には、家の中の安全を確認しましょう。

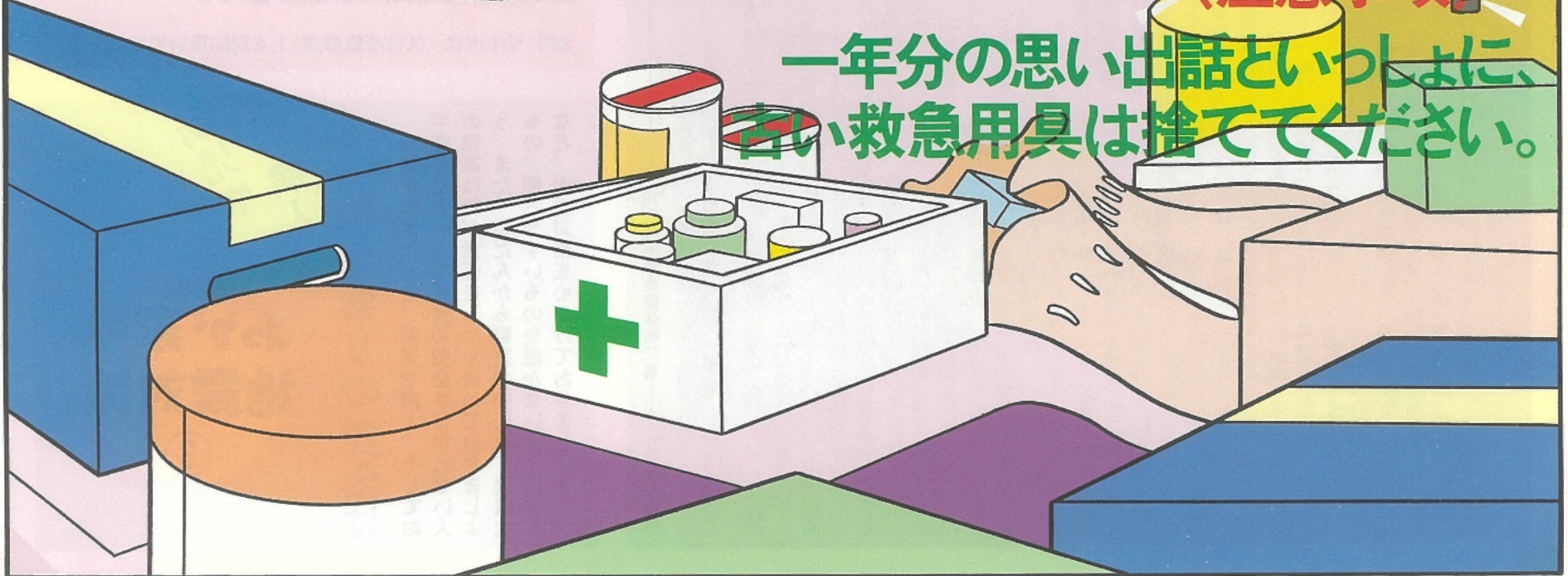
昭和62年川崎市は幸いにも大きな災害に
 見舞われることもなく過ぎようとしています。

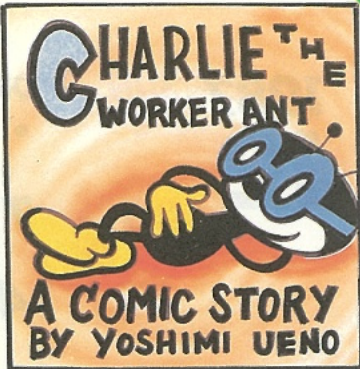
来年もまた災害にあわぬことを願って、
 わが家の安全対策を万全に。



(注意事項)

一年分の思い出話といっしょに、
 古い救急用具は捨ててください。



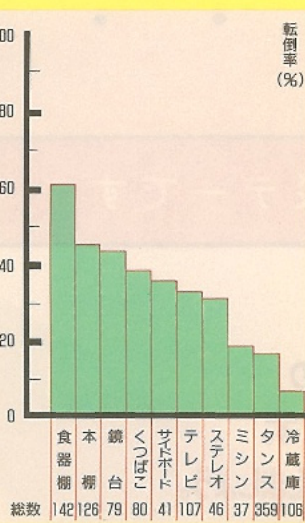


愛車だけでなく 家にも12ヶ月点検が必要です。

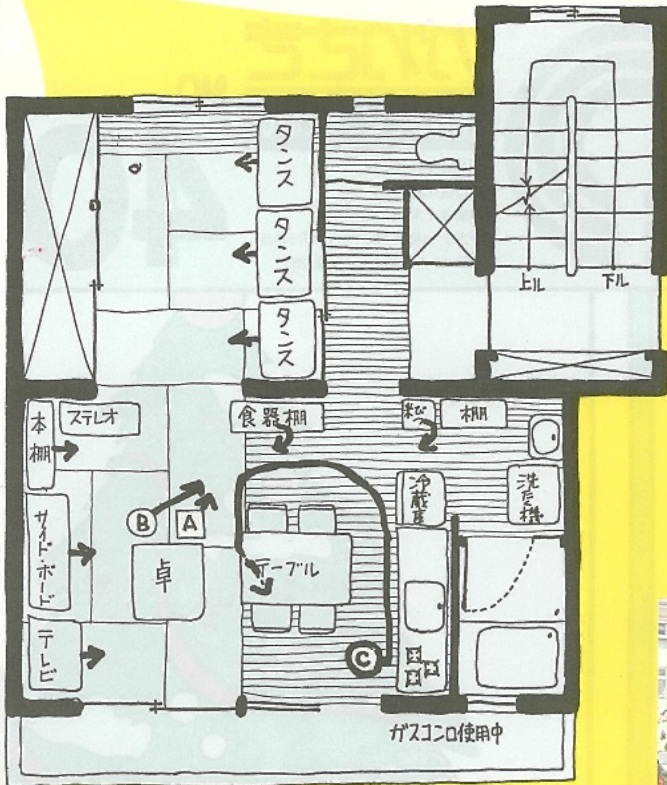
●家の中を見回してみよう

私たちの家の中には、多くの家具が置かれています。本棚・サイドボード・テレビ等— これらの家具は、私たちの生活してゆくうえで必要なものであり、大切な財産です。しかし、一度地震が発生すると家具は凶器になり、場合によっては生命を奪うことになりかねません。特に食器棚・サイドボード・鏡台等は転倒することによってガラスの破片が室内に散乱しますし、靴箱の転倒は唯一の出入口をふさぐ恐れがありますので、注意する必要があります。

昭和53年6月の宮城県沖地震のとき、転倒した家具の様子は次のようなものでした。



●地震発生！
宮城県沖地震の際、仙台市内の団地でのような状況だったのか再現してみましょう。



※A=男児・B=女児・C=妻
2DK 41.6㎡

この図の場合、父(34歳、不在)・妻(29歳、在室)、子供2人(4歳男、2歳女)からなる家族についての行動を主婦とのインタビューによって再現したものである。地震発生時に主婦は夕食の用意でキッチンにいた。直ちにガスの火を止め居間へ走り子供2人をだきかかえ居間のほぼ中央にある食卓テーブルの下に入って難をさせている。この間に矢印で示した家具、食器棚、本棚、タンス……が次々に倒れて来た。なすすべもなくゆれの終るのを待っていた……を表現している。

資料は川崎市防災会議地震専門部会
『川崎市の震災予防に関する調査報告書』から



- ## ●身の回りの安全対策
- 1 家具などはしっかりと固定する
 - 2 棚やタンスの上に重い物を置かない
 - 3 照明器具はしっかりと取り付ける
 - 4 テレビなどは高い所に置かない
 - 5 家の中に少くとも1箇所安全な場所を
 - 6 ガラスを使った家具は特に注意する
 - 7 ふだん寝る場所も安全な所を選ぶ
- また、年に一度は非常持出袋や救急箱の中味を点検し、古いものは入れかえましょう。

自主防災組織への助成制度

川崎市では、自主防災組織のいろいろな防災活動に対して、助成制度を設けていますのでご利用下さい。

- 1 防災資器材購入補助金**
自主防災組織が購入する防災資器材の購入に要する費用の1/2を補助します。
ただし、購入品目の指定、補助限度額があります。
 - 2 活動助成金**
防災訓練や防災集会などを行ったとき、活動助成金を交付します。
加入世帯数や参加人員により金額が異なります。
- お問い合わせは、区役所総務課、土木局防災対策室へ

体験談40 震度V

町内会非常時体制発動

下飯田町内会会長(当時) 平塚 安次郎さん

災害は思わぬ頃やってくる。それはよく言われたものだ。その日は曇天で時折薄曇りの差す日であった。水田の除草を終えて、長ネギを植えるの間に一ふくと、午後五時ごろ茶の間で家内と荒町の妹、嫁と四人でお茶を飲み始めた時、ゴッソと地鳴りがして揺れ出した。震度一くらい位の微震。

あまりの地震は怖くないのでそのまま茶を飲む。地震の時は先づ火を消す。家族で避難場所を決めておく必ずそこに集まること。うちでは真の畑が良いだろう。などと注意話をしていた時、再度ゴッソという地鳴り、バリバリメリメリと異様な様相。私は容易でないと直感した。大声で「逃げろ」と叫んだ。

家内と妹は玄関に飛び出したが、上り口に転げ落ちて動きがとれない。何をしていたのか。とっかかりつける。何かわからぬことを口走って二人で戸口にゴロゴロしている。そのうち戸口の土壁が崩れ落ち、柱が倒れかかる。私は二人を殺してしまつたのではないかと思つた。無我夢中で二人を表面に押し出した。その時は崩れ落ちたモルタル壁でけがをし、額から血が流れた。十数秒間の出来事である。

その日は給水の手配であった。下組は三浦幸一さん、上組は横井忠さんの自家発電機で、門前地区は芳賀元治さんの手押ポンプで間に合わせた。町内としてはどのくらい

町内会を見るときは煙は上がっていない。火災が起きていないと直感した。町内に着くとこの家も大騒ぎ。怒声、泣き声、なにがなにやらわからない。けがは無いかと叫んだ。だれもけがはしていませんの声が返ってくる。三十四、五軒の家を見回したが、家は崩れ倒れたがけが人はいないようだった。その時、下の方から私と同じように見回って来る男がいた。副会長の三浦三男現職農業委員氏。私は下の方から見て来たが、家は壊れたが、人音に被害はなかった。との三浦さんの報告で、不幸にも一応安堵した。私は当時町内会長であった。副会長と相談し、ここで非常時体制を発動することに決したのである。

その日は給水の手配であった。下組は三浦幸一さん、上組は横井忠さんの自家発電機で、門前地区は芳賀元治さんの手押ポンプで間に合わせた。町内としてはどのくらい

調査の結果、町内二百一十四世帯中、居宅の全壊三十、半壊九十六、付属建物全壊二十三、半壊五十四、その他倉、ブロック、べい等の全半壊四十三を数えるに至った。これを復元するには約七億五千万円の巨費を要する。当町内の一千万円の総収入は約一億六千万円であるから、五千万分の収入が一瞬にして吹き飛んだことになったのである。(一部省略)

幼児や病人、お年寄りの安全は

地震が起きたとき、幼児や病人、そしてお年寄りなど一人では身の安全をはかれない人の保護は誰が責任をもつか決めておきましょう。また、ふだんから寝室の中には、危険なもの、倒れやすいものを置かないようにするなど、安全対策を心がけておきましょう。

わが家の地震対策

③

宮城県沖地震 昭和53年6月12日午後5時14分発生
震源：宮城県沖、マグニチュード7.4、死者27人、負傷者1,227人、建物全壊651棟